

動物園から発信するデザイン

○長倉かすみ
横浜市立よこはま動物園

横浜市立よこはま動物園の開園10周年を記念して、来園者がパネル内に描かれた動物と自由に関わり合いを持ちながら写真撮影をすることができる記念写真撮影ボード「十人十色十周年・いっしょに撮ろうよ・アニマルフォトボード」を制作した。制作には、横浜市立動物園のデザインワークに多く関わっているデザインレーベルsetoの協力を得た。

写真撮影ボードは、動物園側のメッセージと来園者が潜在的に持つ要望を看板への関わりによって実現するために、能動的かつある程度自由な関わりを促すデザインとすることを心がけた。これにより、撮影するグループごとのコミュニケーションが活性化され、より心にメッセージが残ることが期待されるのである。看板は、インドゾウ、ドゥクラングル、アカカンガルー、ヤブイヌ、オカピの5種類について制作し、2009年3月にそれぞれの展示場前もしくは動線上の近い場所に設置された。来園者が一番初めに遭遇するインドゾウのパネルは、「ゾウと綱引きをする」という分かりやすいコンセプトも手伝い、一番多く利用されている。

給餌やふれあいなどのような、動物園の動物とのコミュニケーションにおいて来園者が期待することを、希望する来園者全員が体験することは不可能である。また、ステレオタイプの体験を提供するだけでは、先入観以上の発展を望むのは難しい。しかし、擬似的で単純な体験をデザインして提供することで、多くの来園者が体験することが可能となる。また、動物の基本的な生態を理解した上で、その関わりに自分なりの解釈をはさむ余地が存在することで、来園者の参加性が向上し、創造力が発揮される。この関わり合いの中で、自分との比較あるいは共感により、「動物」という存在をより身近に感じることができるのである。

動物園側のメッセージを厳選した上で、デザイナーと共有し、ともにデザインを作り上げ、その後も動物園側でその体験をデザインし続けることで、体験はより動物園らしいものとなっていく。この看板のデザインを通じ、動物園で取り組む一つのデザイン方法の有効性を認識した。